



北海道ソフトバレーボール連盟 便り



平成 24 年 11 月 1 日 H24年 - 03
 北海道ソフトバレーボール連盟
 総務副委員長(広報担当) 滝本 久子
 〒 047-0034 小樽市 緑 3 丁目 10-26
 TEL・FAX 0134-25-8706
 E-mail taki3@s3.dion.ne.jp

ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会(2012マドンナカップ in 伊予市)に参加して

【岩見沢緑陵高等学校女子バレーボール部 相澤 郁夫】

私たち岩見沢緑陵高校女子バレーボール部の3年生岡田 梢(キャプテンでサウスポー)、黒田 和(オールラウンダー)ペアが北海道を代表して8月10日から行われたビーチバレー全国大会に出場して来ました。この大会は1997年から開催され、出場者は女子高校生だけの大会です。しかし今まで北海道からは参加チームがありませんでした。今回で16回目を数えるこの大会に北海道から初出場できればと思いエントリーしました。今年度も道内に他の参加チームはなく、私たちの出場が決まりました。このように参加が実現できたのもソフトバレー連盟総務委員長の山口隆義さんが事務手続きを親身になって行ってくれたおかげと感謝しております。

出場することは急遽決まったので、準備にあまり時間はありませんでしたが函館の福島町で行われたエキシビジョンマッチに浅尾美和さんが来ることを知り、プロのビーチバレーの試合を見に日帰りで岩見沢から黒田和一さん(黒田和の父)が連れて行ってくれ、ここでもソフトバレー連盟理事長の高田政治さんの計らいで二人はボールリトリーバーをやらせて頂きビーチバレーの迫力と醍醐味を身近で感じることができました。

私は昨年度から女子バレーボール部の顧問になりましたが、私たちの学校には体育館が一つしかないので練習時間が少ない分、外で練習を始めたところ選手が楽しいと言い始めたので羽幌や石狩の大会に出場しました。保護者も応援に集まりいつも楽しい女子バレー部のイベントでした。そこでマドンナカップという大会にエントリーしてみようということになったのです。

出発前日まで朝日町で合宿を行い帰宅して8月9日に千歳空港を出発、大阪に降り立ち、そこからレンタカーで愛媛県松山まで高速道路を乗り継ぎ移動しました。この方法が引率して頂いた黒田明美さん(黒田和の母)と4人で移動する一番安い経費だったからです。岡田・黒田両人は修学旅行で大阪には来ておりましたがそれよりも南に行くのは初めての経験です。私も四国は初めてでした。

松山市に到着し、ウェルカムパーティーが行われ役員、選手、スタッフが一同に会し交流をはかりました。川合俊一会長からひとりずつに参加証明書と授与され、記念写真。今大会、北海道から初めて参加ということで開会式では選手宣誓を仰せつかり大変光栄なことでした。

各自名刺を持参していたので、他校の方ともすぐに友達になりました。これは2人にとって一生の財産になることでしょう。

松山市といえば有名な道後温泉に宿泊し、一六タルトや坊ちゃんだんごを堪能しました。ローソンの棚にはさすが「ボンジュース」の紙パック型が2段にも積まれておりびっくりしました。さすが「いよかん」の産地ですね。その愛媛県伊予市にビーチバレーコートが8面張れる五色姫海浜公園がありました。北海道にもこのようなコートがあればいいですね!



会場には1時間前の7:30頃に着きました。いよいよという感じでした。常連の学校はテントとタープ持参で来ており、力の入れ方に差を感じました。

初戦は第一試合にあたり8:30試合開始だったのでまだ耐える暑さでしたが地元、愛媛県の伊予農業高校と対戦し、13対21、13対21の0-2で初戦負け敗者復活戦に回りました。第7試合は午後2時頃からで、この頃の日差しは選手も私も経験したことのないもので暑さに負け、全く動くことが出来ず島根県の出雲農林高校に9-21、4-21の完敗でした。しかし岡田・黒田の両人はともに全力でやりきった表情がとても印象的でした。普通の高校生ならいくらビーチバレーは水着でやるスポーツだからといってもまず水着になるのが嫌ですね。それを克服し、また北海道の女子高校生では初めて経験する事



川合俊一会長とピース

ねんりんピック宮城・仙台2012への参加報告

【札幌連盟 副会長 長谷 辰美】

10月13日から開催されました「ねんりんピック宮城・仙台2012」へ札幌市代表で「札幌さくら」が参加してきました。会場は加美町総合体育館で、田んぼの真ん中に体育館と陸上競技場があり周りには民家も見えない所でした。宿泊した所も同じような環境でしたので外出することなく毎晩ミーティング等を行い試合に専念できました。

今回の参加に先立ち目標を「全国大会でまず1勝」を合言葉に近年無いほど練習をして臨みました。

予選は4チームによるリンク戦で、1試合目は堺市代表の「そや堺」との対戦。無欲で臨み2-0で勝ちまして目標の1勝をはたしましたが欲深い我チームは目標を何としても「1位グループに入りメダルを持って帰ろう」と変更しました。リンク戦ですので2勝しても1位なるのは得失点差での勝負になると思い、2試合目の「和歌山選抜」との試合は常に点数を意識した試合をし2-0、結果ライバルの沖縄に僅差で勝つことが出来1位グループへ入ることができました。

翌日行われました順位別戦でも1位グループに入り、メダルは確保できたのですが、また「前回の石川大会で銅メダルをもらったので違う色のメダルがほしい」との声が上がり、またまた頑張りました。1回戦の熊本市代表「インパルス」とは2-1それもジュースでようやく勝つことができ「銀メダル確保」。

最終試合は元全日本選手がいる「大阪さくら」と対戦しましたがさくら対決は「札幌さくら」が先に散りました。

今回の大会を通しての感想ですが、平日にも拘わらず中学生を動員するなど町を挙げての大会運営をされていたとの印象でした。試合結果も大満足でしたし、とても良い大会でした。又2年後を目指します。

平成24年度 資格認定審査会 終了!

とき 平成24年10月7日(日)
 ところ サンライフ 釧路

受験者数
 インストラクター【B】 5名
 公認審判員 24名
 以上の方が受験しました。



メダルを掛けてVサイン

〈メンバー〉
 監督：高坂 猛
 主将：加藤 忠昭
 選手：鈴木 一昭・長谷 辰美
 本間 弘子・塚本 久美子
 谷口 裕子・能登 幸子

ばかりなので私にも見えない苦労が沢山あったと思います。新しい事にチャレンジしてくれた2人そして大会に出場させてくれた保護者に感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちは初めて北海道代表としてビーチバレー全国大会に出場させて頂いた経験を基に、今後は北海道の高校生にビーチバレーの楽しさを広めていきたいと考えています。そのためには北海道が早急にやらなければいけないことは、高校生だけでなく成年、中学生、小学生に至るまで、ビーチバレー選手が活動できる環境を今よりも整備していく事が重要であると考えています。来年度の東京国体には北海道から最強のペアが出場されることを期待しています。そのためには北海道においてもビーチバレー連盟の創設が急務ではないでしょうか。

最後に今大会に出場するに当たり、応援をして頂いたソフトバレー連盟の皆様をはじめ選手に技術指導をして頂いた難波繁さんと北翔大学女子バレーボール部コーチの荏原さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして出場の機会を与えて頂きました保護者をはじめ、関係者の皆さんにこの場をお借りしてお礼を申し上げます。本当に有り難うございました。

